

a 学校教育目標	夢に向かって かかわり合いながら 伸びていく子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 北方小で学んでよかったと思える信頼される教育活動の推進 【ビジョン】(自校の将来像) ・確かな学力を身につける学校 ・ふるさとを愛し、豊かな心が育つ学校 ・保護者の信頼に応え、地域と共に歩む学校
----------	------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価				改善方針		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎基本の学力を伸ばし、思考力・表現力を高める。	◎基礎・基本タイムやドリルタイムで、フォローアッププリント学習を繰り返し、確認テストを実施する。	・基礎基本定着状況調査と標準学力テストの得点	80%	78.0%				【基礎・基本 国72.7 算 83.3 平均 78.0】 (単元テスト 国85.2 算 81.1) 国:書くことの中心を明確にし理由や事例を挙げて書くことと 言語についての知識や技能に課題がある。 算:図形領域 数量関係において、言葉を使って記述することに課題がある。	○国語:しっかり読むこと、条件に合わせて書くこと、話すことを毎時間継続する。 ○算数:系統的に繰り返し復習させること、考えを論理的に説明するため書くことを重視した指導を行う。 ○ドリルタイム、基礎基本タイムで学力補充・個別指導を継続する。	3			・全体的に適正な評価がされている。 ・短期目標など、具体的な目標があると、子どもたちも取り組みやすい。いい取り組みである。 ・細かに分析され、改善方針も適切に立てられている。 ・全体として落ち着いた、授業を参観して、児童が前向きに学習している。 ・読書は、幼少期の習慣づけが大切である。 ・授業の工夫を今後も続けてほしい。 ・家庭でも、例えば「水筒」というように単語で話すことがある。最後まできちんと話させる習慣を身に付けさせたい。
		○「考え方のツール」を活かした授業研究と協議を年間1人2回以上実施する。	・実施回数	100%	100%				【1学期に授業研究4回、研究会、一人2回実施】 校内研修では講師を招聘して「考え方のツール」を活かした学習展開の見直しを行ったり文章の枠組みを読み取る指導方法を研究したりした。 本郷ブロックの授業研究にも積極的に参加し、研修を重ねた。	○2学期後半から、考え方のツールを活かした算数科授業研究と、道徳指導案検討を行う。 ○本郷ブロックで授業参観と協議を行い、授業力の向上を目指す。(11月に推進協議会で授業公開)	3			
		○家庭学習内容の見直しをし、学習時間(低30 中40 高60分)を定着させる取組を行う。	・児童と職員アンケート ・チャレンジウィークでの達成率	80%	72.5%				【学習時間】低30分:100% 中40分:91.6% 高60分:80% 学習の手引きを提示したり、連絡帳等で毎日保護者連絡をしたりして定着を図ったが、高学年に課題が見られる。	○各学年の重点単元を徹底して習得させる。 【くり上がり繰り下がりが計算・かけ算九九・かけ算筆算・わり算筆算・分数 割合 基本図形等】 【主述 修飾語 接続語 文末表現 文の構成 要点 要約など】 ○毎日漢字テストを実施し、調べ学習や自主学習を継続する。	3			
		○読書力をつけるため、家庭読書1週間1時間以上等の読書目標を決めて取り組む。		80%	71.4%				【低学年100% 中学年91.7% 高学年40%】 月曜日の読み聞かせのおかげで、低学年には、本好きな子が多く、家庭読書が習慣化できている児童が多い。高学年の児童へ読書の習慣化ができるような指導が必要である。	○図書委員会と連携し、お勧め図書を紹介する。 ○司書との連携によるブックトークや読み聞かせを通し、本の面白さを知らせる。 ○「子ども図書館司書」による活動報告会を設定する。	3			
		○書く力を高める。	・実施回数と出品人数	100%	ノート交流 90% 作文コンクール 176%				【ノート交流:1学期3回実施】児童のノートや作文の掲示コーナーを設け、児童へのよい手本を提示した。 【作文コンクール等の出版:合計50点】広島教育の日メッセージ「こぼの輝き」「三原の子どもたち」など夏休みを中心に作品を書き出展した。最優秀賞、優秀賞など受賞し自信を持った。	○毎月1回計画的に実施できるよう各学年のノートを持ち寄り、研修を継続する。 ○日記を継続する。 ○手本になるノートや作品は、引き続き掲示して全児童に紹介する。	3			
豊かな心の育成	社会的なルールやマナーを身につける。	◎元気の出る挨拶と「はい」の返事ができる。	○意欲を高める評価方法を工夫する。	90%	75%			【元気の出る挨拶をしている。児童80%、保護者70%】 一斉下校などの場を捉えて気持ちの良い挨拶をする児童を評価した。	○あいさつレベルについて掲示物を作成し、意欲の高まる評価を行う。 ○児童会があいさつ標語を募集して掲示するなど、関心を高める。 ○一斉下校などの場を捉えて気持ちの良い挨拶をする児童を評価することを継続する。	3			・あいさつをよくするようになってきている。保護者のほうがあまりしないのではないか。大人として手本になりたい。 ・地域の方々のおかげで、あいさつができてきている。 ・大人が返事をしない場面を見かけた。気をつけたい。	
		○時間を守ってすみずみまで掃除ができる。	○意欲を高める評価方法を工夫する。 ○点検表を利用し振り返りをさせる。	75%	59.6%			【おそうじようずで賞9月受賞者は30.6%、児童アンケートは88.6%】 担当者の推薦をもとに、上手に掃除ができた児童を評価し表彰した。掃除時間になかよし班の担当者を中心に掃除場所を巡回し指導した。	○なかよし班の編成替えをきっかけに、掃除に意欲的に取り組む姿勢が見えてきている。 ○「おそうじようずで賞」の班バージョンも作って表彰することで更に意欲の維持向上を図る。 ○掃除時間に班の担当者が掃除場所を巡回し指導することを継続する。	3				
健やかな体	進んで体力向上に取り組む。	○進んで体力向上に向けた活動ができる。	○体育の時間に、柔軟運動・サーキットを実施する。 ○毎朝3分間、マラソンまたは縄跳びをする。	・スポーツテストの結果	4種目平均以上	今後実施			【体育の時間に、柔軟運動・サーキットを実施】 どの学年も平均を越えられなかった種目:50m走とボール投げ	○スタートダッシュの方法やボールの投げたかなど繰り返し練習をさせ、まずは基本を身につけさせる。 ○低学年では、いろいろなボールを投げる遊びを取り入れていく。 ○高学年では、投球ホームなどを細かく指導し、腕を振る感覚を身につけさせる。	3			・ボールを投げについて遊びの中で力をつけてほしい。 ・遠距離通学で、持久力は身につけている。
		○「本郷スタイル」の定着度について、児童に振り返りをさせ、毎学期交流する。	・児童と職員アンケート	80%	60%				【学習のはじめの準備ができていない。85.7%】 【へそを向けて聞く・比べて聞く71.4%】 一度で話を聞き取ることができない児童がいる。	○児童が集中して聞くことができるように、視覚支援等を行う。 ○今後もカードをチェックし、授業の中で、理由付け発言や聞く姿勢などを常に意識させ評価していく。	3			
信頼される学校	連携教育を推進する。	◎幼小小中との連携を深める。	○保幼との連携行事を3回以上行う。	・実施回数	100%	今後実施予定			・就学予定の児童についての連携を行っている。 ・校長、園長、所長連携会をこれまで2回実施。 ・1年生は、国語科の学習で「図鑑づくり」をして保育所や幼稚園へ届けようとする意識を持ち取り組んだ。	○1年生と6年生を中心に、11月から計画的に実施する。 ○来年度就学予定の児童について連携を継続する。 ○連携協議会で、園児や児童の課題を整理をし、つけたい力の共通点を確認する。	3			・学習の時、座る姿勢が保てない児童がいる。引き続き、取り組んでいってほしい。

【j:自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:できていない<60

【l:学校関係者評価 評価】  
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。